

金融機関支店長との意見交換



地域内の就労に関する実態は… (調査協力の依頼)

H28.3.2 第4回金融機関支店長会議 / 「3 Days Worker's Office 構想」有識者会議

市内すべての金融機関が、独自のネットワークを活用し
本市が行う「就労に関する需要供給調査」に協力することで合意。

【調査実施期間】平成 28 年 3 月中旬(予定)

第4回「金融機関支店長会議」での意見紹介

●担い手となる高齢者（60歳以上）の方が、引き続き企業等にお勤めになりたいというニーズはある。

一方、企業側が高齢者の雇用に対し、どのような魅力を感じるのかなど、調査結果に興味がある。

●子育て中の母親が担い手として活躍するには、子供の発熱など突発的な対処が必要で、勤務の時間帯や働き方など柔軟に対応できる環境づくりが求められる。雇用側がどの程度、これらのニーズに対応できるのかがカギとなるだろう。

●仕事のマッチングにおいて、求人・求職の互いに求める時期（時間帯）を合わせることで意外と難しい。

●高齢者就労の促進においては、1対1の個人対応よりも、複数人で構成するグループ対応「ワークシェア」が体調不良などへの対応も含め、現実的かも知れない。

●人手不足が懸念される小規模な事業所などで、新たな仕事を切り出すためには、経営者の理解のほか、労務管理など専門的かつ煩わしい事務をサポートする仕組みを整えることが構想の実現に繋がるかも知れない。

●企業内での再雇用を含め、高齢者の活躍などの具体的かつ身近な事例を示すことで、関係者の理解が深まると思う。担い手側も自分にとって、都合の良い就労環境をイメージしすぎるとミスマッチ（トラブル）が生じる。

(参加金融機関)

株式会社静岡銀行、株式会社清水銀行、磐田信用金庫、掛川信用金庫、浜松信用金庫、静岡県労働金庫、遠州中央農業協同組合